

新入生の皆様へ 京大原子炉事故所をめぐる 諸問題に御注目を▼

放射能タレ流シ糾弾、2号炉阻止

誓言常駐化物語▼ 京大原子炉学習会

(1) <はじめに>

新入生の皆さんへ、皆さんは、昨年、京大原子炉事故所をめぐる伝聞か、何度か、報道されたことがあるのを覚えておられることはあります。私達は、その京大原子炉事故所の問題を中心的に指して、またサークルです。

(2) <私達の視点と原子力>

私達は、原子力影響の問題点を学習してきました。そして、私達は「一切の原子力はいらない」という認識を深めました。私達は、一核も早く原子力を、原能も、なくしていくなければならない。そのためには、単なる学習会ではなく、実際に自分で考え、行動していく中から、反原発（反原子力）の運動をやりあげていくものでなければいけないと考えています。

(3) <京大原子炉の問題点、のべ、御用学者徹底追及>

原発推進のため、不正は、併行倒産を、「安全は至当」「事故の確率は、100万分の1」「原発はく監の作、下のものの中で一番安全」と、毎日新聞に、京大原子炉事故所、事故という言葉よりも「発電所」が書かれました。桂由美與といふことです。早速、桂由美は、原能過越し、その根拠を聞きました。しかし、彼は、「...と聞いたことがある」「暗算したらこうなった、などと全くムキヤリやつは、答えて終止符を打つ。私達は多くの人々の前で、かへ立事を全くせず、していることを明らかにし、彼の誤謬を著くことを約束されました。しかし、彼は、その誤謬になつて、最初、立入り拒否を仰ぎ、ついで、山本（山本）は、はじめは「科学技術官の見解か」と云ふ、その見解があらると「公認なし」企

ることもある。乙、京大原子炉に眼を向けていきましてするとどうでしょう？ 所長（当時）の柴田が何と美浜原発の事故の際、「事故原因がやむやになる」と福井県知事に反対した。折損燃料棒輸送に京大の容器を賣したり、自分達の京大2号炉建設認可と引き替えに、製造原発の事故原因隠蔽に役かたりしているのです。このような人が、所長であつたり、最も住民側に立つべき放射線管理者であつたりする原子炉は、重大な問題点を有かえているのです。

(4) <その(3)、京大1号炉、放射能タレ流シを許さない

京大原子炉は、現在、1号炉がありま。この1号炉は、研究用原子炉とは言つてもウランを使用することには、違ひなく、普通の原発と同じ問題点を有かえています。昨年、京大原子炉の排水口から、日本の最高濃度とも言える濃度放射能が検出されました。しかしそれ検出したのは、阪大の1研究炉で、原子炉は、汚染状況を全く把握していない、あえて調査するなど、柴田さんを安靜が運営されたのです。私達は、「放射能タレ流シ糾弾、一号炉を即時停止し、汚染土壤の回収処理を行なう」と住民、学生に納得、いく説明会を行つた。とたゞらに、京大原子炉当局の直面行動を開始しました。私達は、たとえ、研究用と言ふども、環境汚染者ではならぬといふ「放射能タレ流シを糾弾し、公判請求者を求める署名」を全學2000並くも集め、その連合、天地協力協会を期し、彼らを迫使してしました。所長柴田（当時）は、はじめは「科学技術官の見解か」と云ふ、その見解があらると「公認なし」企

いたないと、輿論が止むに絶止しました。その後、現地の集会では、警官・機動隊を駆逐し、撤退した隊員をくり返したりする。所長は公表は自らも講演会を求める私達や住民に対し、アリバイ的に東大原発に、微量ながら安全、許容濃度は存在していると、放射能は、どんなに微量でも危険であり、これ以下なら安全という値はないという学会の常識を櫻井し、どんな汚染がどこまで、法律（許容濃度）さえ守っていれば、責任はないのだ、という、公害企業権益への論理を載せらばかりて、現在まで公見ずらずを続けているのです。そして、私達の主張を原発前に立看板にすると、私達が帰った直後に、撤去したりしています。

(5) その(3) 東大原発第2号炉の問題点

もちろん、研究問題の中でもウランを燃やします。しかも原発と違い、93%（2号炉は45%、いつも原発は3%）濃縮のウランを用い、ときどき尾氷口をあけなければならぬのであれば、原発より、さらに高いとも言えます。東大原発の問題点を、ごく、かいつまんで書くと、①放射線管理が極めてすこんで（責任者は、前述の桂山）自由道の実験の為に、前者に大量の放射能を放出したことである。②周辺住民に精算排水を通じて被曝が想定する。③中世封建線上にあり、耐震設計が不十分である。etc. etc.です。

さらに、現在ある1号炉の老朽化に伴い、2号炉が計画されているのですか、それは、同様に、①、他県最初の2分割炉心という方法を採用するため、安全特性上問題がある。②、周辺の人口増加する、人口密集地に原子炉を作る事となる。③、原爆の爆破範囲に範囲されるとして、研究所へ入っていました。etc. etc.と、これまで、困難が山積みであります。私達は、東大原発を嫌う、寧ろ、重大な災難を防いでいることを知り、一歩もさから反対運動を繰り広げました。これからも、地道に、2号炉の老朽化止め、でござります。

(6) 警官常駐化に付しよう

その他、東大原発にて、核立委が取扱う事

目で、警官常駐化の計画があります。大学の研究施設と、警官が、常駐するという、前代未聞の事態となって、警官が、陰に陽と、思想チェックや、行動チェックを行い、研究を統制していくのは、火を見るより明らかです。しかし、実験担当者は、そんな計画に並んで加担している節さえ、見られます。私達は、この点も、断固とした、抗議行動を行っていかたいと思います。

(6) 公開学習会に参加しよう

みんなさん、熊取をめぐる問題をか、ていただけたでしょうか？

私達は、何回か、公開学習会を用意しています。

是非、御参加下さい。御質問、御意見、虚偽なく、どうぞ！

一 反原発学習会 公開学習会のお知らせ

4月15日(火) 萩野晃也氏(京工工学部)

「原発力帝国の出現?!!」

(原発力構造の現状)

4月22日(火) 萩野晃也氏

「アリーマイル・島事故と原発力」

4月28日(月) 甫川定夫氏(埼玉大
理工科)

「微量放射線の危険性」

以下、立看に御注目